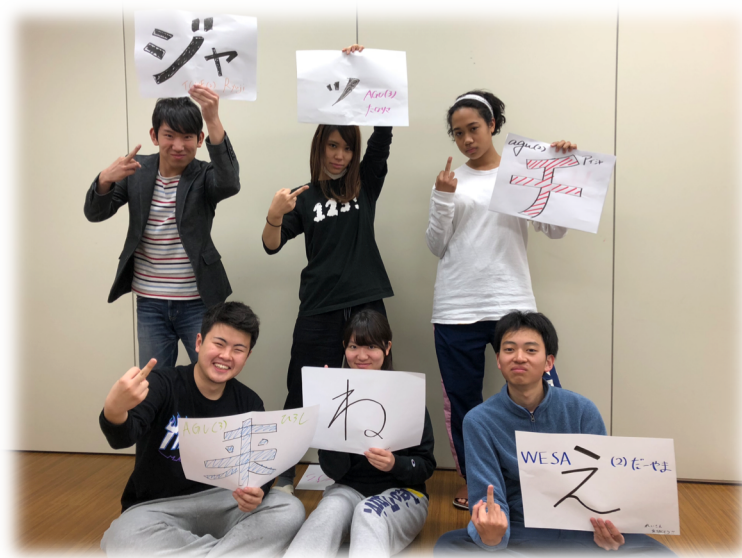


2018 年度 春の大セミナー 21 番テーブル (C) 総評

文責：花形（明学 4）

【テーブルメンバーと順位】

- 1 位 宮本（青学 3）
- 2 位 田中（青学 3）
- 3 位 山田（早稲田 2）
- 4 位 中島（高経 2）
- 5 位 万波（青学 2）
- 6 位 田中（慶應 2）



【目次】

1. 議論の流れ
2. 選定理由、個人の総評
3. 最後に

《1. 議論の流れ》

OP 決め

山田が立候補し、他に立候補者はいなかったため OP は山田となった。

オピンの内容は「現状体罰を受けている生徒の M/S を減らすため、体罰をした教員に対し罰則として教師免許を剥奪する政策を採るべき」といったものであった。

ASQ

特に停滞を生むこともなく中島や田中による定義の確認がされた。

NFC

中島が warrant へ「教師の数が減ることにより教育の質が下がる」といった反論を提示した。

これに対し、田中（青学）が「教師の数が減るということは体罰の数も減る」という意見を提示し、中島はこれを認めた。最終的に、田中が提示した S により中島のアイデア検証は終了した。

PLAN

特記事項なし

DA 決め

田中（青学）と中島が立候補した。

田中：TG) 教師 QL) 教師免許を剥奪されたことによる M/S

中島：TG) 生徒 QL) 教育の質が下がったことによる M/S

中島が Q を受け付けた際、田中が doubt を提示した。内容は「TG として置いている生徒は SQ で体罰を受けた生徒と同一人物であり、キャラクターに UQ がない。よって DATG として認められない。」といったものであった。

これに対し、宮本を中心に「同一人物であっても Plan 後に SQ と異なる M/S を感じていればそれが UQ である。よって DATG として成り立つ。」といった“中島のアイデアが DATG として認められるべきか否か”の論点に発展した。

最終的に、お互いの Q や C を経て、もし中島が DA プレゼンターとして選ばれたら再度結論を出すこととなり voting に移った。その結果、田中が選ばれた。

Comparison

大きく分けて 3 つの論点があった。

- ① AD > DA (QL) …AD の肉体的苦痛であるのに対し DA はそうでない。直接的な痛みは、natural thinking により害が深刻である。by 山田

いくつかのやり取りの中で、当初 DA の data 部分が “lose job” であったのに対し、万波が、山田が証明すべき data は「肉体的苦痛であるかどうか」であると捉え “× physical pain” に文を変えようという S を提示し、山田はそれを認めた。

- ② DA>AD (QL) …DA の term of M/S は職を失ってから死ぬまでであるのに対し、AD は最長 9 年間（小学生～中学生）である。よって term の長い DA が AD より深刻である。by 田中

①の obj として田中が反論を提示した。しかし、宮本の「比較基準が異なるため obj ではなく別のアイディアとして提示しよう」という S が通りこの場では検証には至らなかった。

- ③ AD=DA (QL) …<exception> ADTG が交通事故に遭った場合。DATG が深刻な病にかかった場合。完治までの時間を鑑みると直接的な痛みであってもそうでなくても痛みを感じる頻度は変わらない。よってオフセット。by 宮本

②の後、①の検証に戻った。田中と宮本の介入により、warrant (direct pain> indirect pain) の理由が “natural thinking” に至った経緯は「直接的な痛みであればあるほど、痛みを感じる頻度が多い」という山田の意図が明らかとなった。そこで「直接的な痛み、間接的な痛みに関わらず完治までの時間で見たら痛みを感じる頻度には変わりはない」という主張の exception を提示した。全テーブルメンバーがこのアイディアを認め、結論がついたところで議論は終了した。

《2. 選定理由、個人の総評》

1 位 宮本（青学3）

テーブルの進行と結論決定に最も貢献していたため 1 位としました。特に評価したいのは、オフセットアイディアの内容を田中さんが前に出した term の話と絡めていたことです。前の話も活用し、説得力を強められていたので非常に良

かったです。

改善点は **ASQ** で介入をすることです。別のテーブルで見た時もそうだったのできっと自分が話したい時に話すスタイルだと思うのですが（笑）、伝わりやすい介入ができるので是非アッセンでは去年のようなガン介入をしてほしいです！

2位 田中（青学3）

NFC のアーギュメントを収束したこと、コンスタントに **Q** や **doubt** を示していたため2位としました。惜しかったことは **NFC** の意見提示です。「教師の数が減るということは体罰の数も減る」という意見を **S** の前の理由づけとして使っていましたが、それも一つの **obj** に値するのでロジックの形で提示できれば尚良かったです。**S** 以外でアーギュの収束をするプレパもすると介入のバリエーションも増えるのでおすすめです！でも前に見たとき、話せないと悩んでいたけれど今回はそれを感じなかったのが個人的にホッとしました。

3位 山田（早稲田2）

OP として **AD** を立証したため3位としました。改善点は **OP** として必要な「推進力」と「自分の言葉で説明すること」です。まずは「自分の言葉で説明すること」を意識してほしいです。自分の意見はこうで、なぜそう思ったのか、その影響で何が考えられるか…など、テーブルメンバーに聞かれる前に、土台作りができるようになったら大きな第一歩です。そうすれば後から推進力もついてきます。とはいえ、**WESA** の2年生はまだ所属が決まってない中で春セミに参加したことはすごく良い経験になったと思います。是非ディススタ（だっけ）になってディスを楽しんでください！

4位 中島（高経2）

ASQ での **Q** と **NFC** でアーギュを検証したため4位としました。改善点は介入量です。せっかく **ASQ** で何回も **Q** をしていたのに、特にコンパリからは介入が見られなくて非常に惜しかったです。だからまずは、コンパリの理解から始めるのが良いと感じました。知識があればあるだけコンパリ観と言われる自分なりの意見が生まれます。是非コンパリの基礎から実践まで取り組んでみてください！

5位 万波（青学2）

介入が限定的であったため5位としました。だけど、その介入（コンパリで data の文を変えようという S）がすごく良かったです。そんなに？と思うかもしれませんが、テーブルメンバーはチャートに書いてある文字がその人の言いたいことであると捉えます。実際は文字と意図がズレることがあって、今回は万波さんがそれを指摘することができました。それから、少し手元を覗いたときに綺麗にチャートにまとめられていたので是非武器にしてください！出していなかったのがもったいなかったです。応援しています！

6位 田中（慶應2）

介入が見られなかったため6位としました。まずはディスカッションに参加するとき、持つものをシャーペンからチャートペンに変えてみましょう！私も1年生にときに先輩に言われたことなのですが、シャーペンだと書くことに集中してしまうそうです。チャートペンでわからないことを書いて、そのまま「これわかんないです！」ってテーブルに出してしまえば介入もできるし答えももらえるし一石二鳥です。そうしたらテトリスと同じくらいディスも楽しめるかもしれないのでやってみてね！（笑）

《3. 最後に》

改めて、春セミお疲れ様でした！そしてこちらも改めてですが、ジャッジ側のミスで20分近く待たせてしまって本当にごめんなさい（；；）5thで疲れてるのにね…。でも終始良い意味で和やかで、私も楽しく春セミを終えることができました。

2年生も3年生も、「自分が理想とするディス」を追い求めてほしいです。

私はランクとしての結果を残すことができませんでした。でも、アッセンでは自分のスタイルを貫き通すことを選んだので後悔はありません。逃げと思う人もいるかもしれませんが、そんなのは本人がそれで良かったと思うかどうかなんです。だから、特に3年生は自分が納得して引退できるように理想を考えてみてください。私はいまも、「最後までエドウケを全うする」という目標をもっています。そういった意味ではみんなと同じ現役です。一緒に頑張りましょう！

何か質問などありましたら連絡ください^^（ID：kannd-34・花形明日華）